

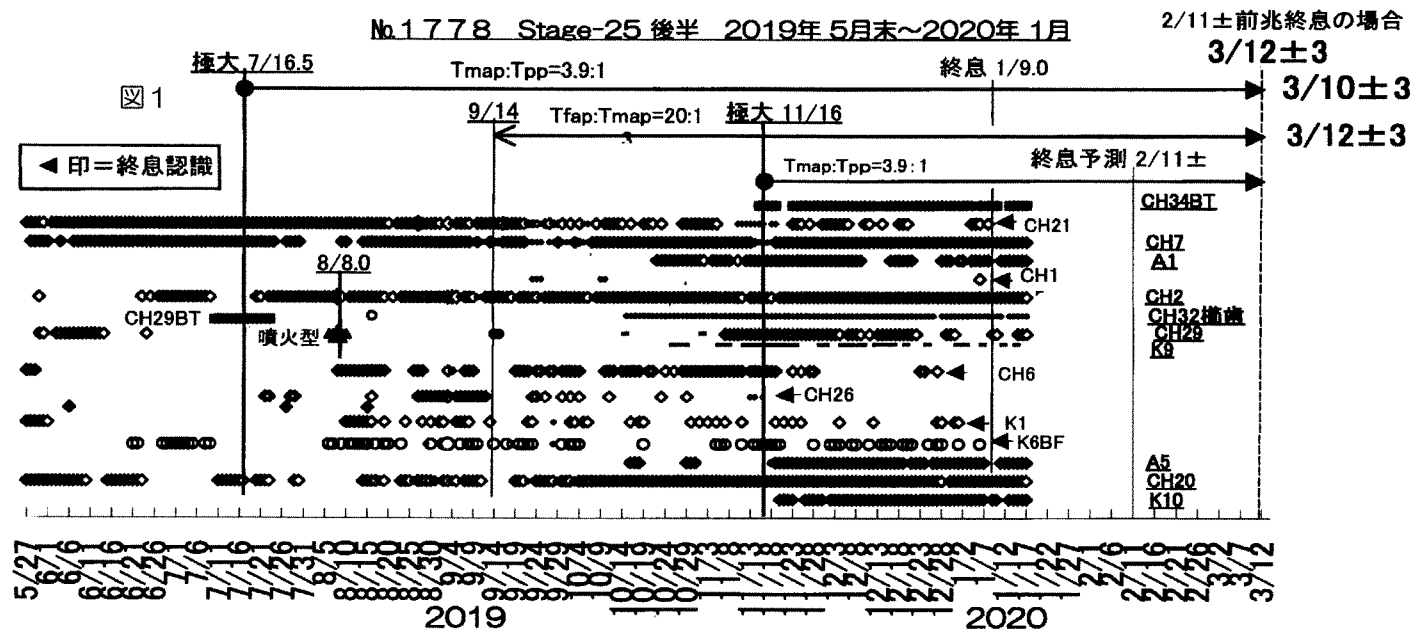
PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.284

2020.01/17 (金曜) 17:00 発表

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 長期継続前兆 続報 現認識を訂正 3月12日±迄 発生の可能性なし



前続報では、最も早い場合の発生の可能性は01月25日±2と報告致しました。しかし、この推定が正しい場合の計算上の前兆変動終息時期に、前兆変動の終息変化が現われませんでした。そこで、前号までの前兆変動の関係（初現・極大・終息のいずれか2つの関係）認識が誤りであることが明らかですので、前兆変動出現状況を再考しました。

01月09日に複数観測装置の前兆変動が終息し、その後再出現が認められないことは、前兆変動時間変化の中では重要と考えます。この終息変化を昨年07月16.5日極大に対応させ、Tmap:Tpp=3.9:1経験則で計算しますと、上図1のとおり、03月10日±が計算できます。

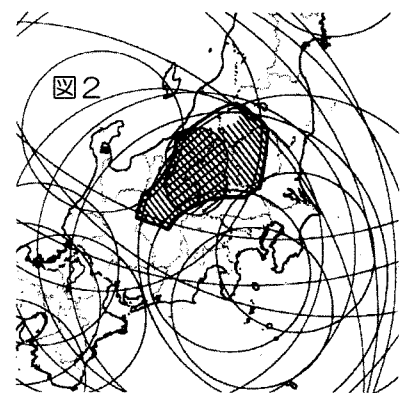
さらにCH29の09月14日の変動出現を初現とし、11月16日極大に対し、Tfap:Tmap=20:13経験則を使用しますと、03月12日±発生の可能性が計算できます。現状の前兆変動継続の状況からも、最も早い場合の発生の可能性としては、前述の03月12日±3日が考えやすい状況です。これが正しい場合には、03月12日±3日以前に対応地震が発生する可能性は否定され、安全だと言えます。

11月16日が最終極大である場合は、02月11日±02日に現在継続中の前兆変動が終息することが観測されるはずですが、これが確認できるか否か観測を続け、続報でご報告させていただきます。また、これ以外の可能性が考えられる前兆変動変化が観測された場合も続報でご報告させていただきます。これ程前兆期間が長く、複雑な前兆変動形態は始めてで、最も早い場合の発生時期を検討していますが、都度推定される時期以前は少なくとも安全であるをご認識下さい。

1995年1/17発生の兵庫県南部地震「阪神淡路大震災」発生から本日で25年。1993年にFM電波観測で地震前兆変動が検知されることを発見し、1995年の兵庫県南部地震発生を機に観測研究を本格化しました。

M7規模の地震はその後多数発生していますが、都市を襲い多くの方々の尊い命が失われた陸域の地殻地震災害としては最大です。犠牲となられた方々のご冥福を心よりお祈りさせていただきます。また、将来の地震予報の普及に向け一層の努力を続けて参りたいと決意を新たに致しました。

C) Copyright 2020 YSBO ハヶ岳南麓天文台



- ◆推定領域：図2の斜線域（複斜線域＝参考域）
浅間山または草津白根山近傍領域の可能性考えやすい
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：前兆終息後計算予定
最も早い場合の可能性 03月12日±3の可能性有
（但し、02月11日±に前兆変動終息が観測された場合）
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻・火山近傍
- ◇推定発生時刻：午前09時30分 ±1時間30分
または午後05時 ±3時間